

〔令和元年度明専スクール 令和元年10月12日、11月2日・3日開催〕

明専スクール（スタッフ7年目）に思うこと

情知日12 小野田 真也



1、明専スクールとの出会い

私は明専スクールのスタッフとして、平成25年から参加しています。

明専スクールとの出会いは、情報工学部キャリアセンター長の徳丸雅夫さん（機49）から掛かってきた一本の電話でした。

元日立製作所の徳丸先輩とは同じビルに勤務するグループ会社の同窓ということ、仕事のアドバイスや先輩方の会合へのお誘いをいただくなど、お世話になっていました。徳丸先輩から「学生支援活動に協力してほしい」とお願いされたときには、明専スクールの存在を知りませんで

したし、自分なんかで務まるのか不安もあったため、お引き受けするか悩みましたが、学生のためだけでなく、私自身の成長・人脈形成にも役立つと説得され、お引き受けしました。

2、明専スクールとは

明専スクールは、明専会が注力している学生教育支援活動の一つです。例年、秋に開催されており、令和元年度は昨年の10月12日、11月2日・3日の3日間にわたって開催されました。

明専スクールは就職内定者を対象としており、企業に入社したときに他とは一味違う、一目置かれる社会人に育成することを目的に開催されています。実践型キャリア育成を掲げるだけあって、その内容は座学の講義だけでなく、出張報告書の課題やグループ討議の演習もあり、集中的にビジネスの基礎を学べる実践的なプログラムになっています。

ビジネスの基礎を学ぶ目的であれば、ビジネススクール等もありますが、明専スクールの最大の長は、九州工大卒業生が企画し、講師を務め、後輩のために親身になって講義・指導されている点だと思います。座学の講義においても、九州工大建学の歴史から学びます。通り一遍の知識を教えるのではなく、講師自身が社会人として心掛けていることや苦労話等、同窓だからこそ伝えられる内容になっています。

3、スタッフの役割

明専スクールのプログラムにおけるスタッフの役割は主に3つです。

①出張報告書の添削・指導と②グループ討議の指導、③学生たちとの懇親です。

① 出張報告書

1日目の最後に、「出張報告書を提出せよ」との課題が出されます。今回の明専スクール受講を、入社後の出張と見立てて、出張報告書を提出してもらいます。

提出される出張報告書の添削・指導をスタッフが分担して行うのですが、会社で部下を指導するのは

違った難しさがあります。

私が難しいと感じる点の一つは、指導する学生との間には、上司と部下のような関係性が構築できていない上、メールのやりとりだけで指導しなければならぬ点です。文面だけで真面目に指導すると、どうしても冷たい印象を与えてしまうので、1日目の懇親会で添削を担当する学生と会話する、学生相手のメールでは極力やわらかい表現を使うなど、工夫しています。

二つ目は、多くのスタッフが分担して指導する点です。添削した出張報告書の例を3日目の講義で紹介するのですが、スタッフによって指摘する点が違っては学生を混乱させてしまいます。また、複数の学生を指導していると、自分自身の指導内容にもブレを感じることがあります。そのため、添削・指導のポイントを標準化したいとの思いで、2015年にチェックリストを作成しました。今ではチェックリストを見返すことも減りましたが、新しく参加されるスタッフの方に参考にしてもらえるとう嬉しです。



グループ討議の様子

場になっていくはずですが、グループ討議のスタッフとして私がついても気を付けていることは、学生たちの学ぶ機会を奪わないことです。私は、悩んだり、失敗したりした方が学ぶことが多いと考えています。そして、このグループ討議は失敗が許される場なので、学生たちが悩んでいても極力口出しせず、気付きを与えるために質問する程度にしています。

数年前までは男子は武道場、女子は仙水荘に宿泊する合宿スタイルでしたが、今は希望者のみ宿泊となったため、深夜まで語り合う人たちも減りましたが、お酒が入ると社会人も学生も本音トークが飛び交います。先輩たちは生々しい経験談や熱い思いを学生に語り、学生たちは入社後の上司には聞き難いようなことを先輩たちに質問しています。

最近では、明専スクールの卒業生も参加し、スクールの思い出や就職してから役に立った明専スクールの教え等、学生たちにより近い立場で

アドバイスをしてきています。このようなつながりは同窓ならでは、と感じます。



懇親会の様子

4、おわりに

学生時代の6年間を飯塚キャンパスで過ごした私は、入試以外で戸畑キャンパスを訪れた記憶がなかったですし、卒業後も訪れることはないと思っていました。

そんな私ですが、卒業から10年以上経った今、毎年10月、11月に戸畑キャンパスを訪れ、明専スクールに参加しています。スタッフという立場ですが、諸先輩方の講義を学生とともに聴講し、異業種で活躍されている先輩方や現役の学生に刺激を受け、多くの学びを得ています。

徳丸先輩から電話をもらった時、躊躇しながらもお引き受けしたことは本当に良い決断だったと思っています。そして、声を掛けてくださった徳丸先輩に感謝しています。

私は微力ながらも明専スクールの活動をお手伝いできていることを嬉しく思うとともに、この活動の素晴らしさをより多くのOB・OGの方々と共有したいと思っています。

もしかしたら皆さんにも先輩からお誘いの電話が鳴るかもしれませんが、そのときには「はい、よろこんで」の精神でひとまず快諾してみてください。きっと後悔はしませんよ。

(株)日立ソリューションズ西日本

② グループ討議

学生たちが6〜7名ずつのグループに分かれて、2日間にわたって討議します。1日目に提示されるテーマについて、グループの意見をまとめ、プレゼンテーションする、かなり実践的なグループワークです。スタッフは、各グループ専属で討議の進行をサポートします。

「テーマが抽象的で難しい」と学生がこぼすのを聞きますが、これから社会に出て、正解のない問題に取り組まなければならない学生の皆さんにとっては、もつとも学びの多い

③ 懇親会

1日目と2日目に、百周年中村記念館で懇親会が開催されます。